

あん ど や し き い せ き い こ う じ ょ う も ん じ だ い ば ん き
安堵屋敷遺跡で発見された遺構は、縄文時代晩期(約3,000～2,300年前)
の住居跡2棟、炉跡状遺構1基、ピット5基、埋設土器5基、遺物包含層です。

2棟の住居跡は、ほぼ同じ位置で上下に重なるように見つかりました。上位の住居跡(BJ54-1住居跡)は、壁が失われており、大きさや形状ははっきりしませんが、貼床(住居の床を平らにするために貼った土)の範囲からみて、直径3.5m前後の規模の円形とみられます。中央には石囲炉が作られています。下位の住居跡(BJ54-2住居跡)は、直径が2.8～3.3mの円形で深さは10～20cmです。中央には石囲炉が作られています。この住居に貼床は見られませんでした。

このように、発見された住居跡はわずか2棟ですが、大量の土器が見つかったことから、調査を行った範囲の外側に集落が広がっていたのではないかと推測されます。



上位(新)・BJ54-1住居跡全景



下位(古)・BJ54-2住居跡全景